港北区災害ボランティア連絡会ニュース

事務局　〒222-0032　横浜市港北区大豆戸 13-1 吉田ビル 206 港北区社会福祉協議会

TEL 045-547-2324　FAX045-531-9561　　mail　info@kouhoku-saibora.net

HP　http://www.kouhoku-saibora.net

54 号

2017 年 5 月

＊入会は随時受け付けています。あなたの町の防災度を高めるためにお力を貸してください

災害から守りたい

いのち・くらし・ゆめ

それを実現する災ボラ活動を作ろう

大事な人をなくすことほどつらく悲しい事はありません。それが災害と言う巨大で理不尽な出来事によって突然失われればなおさらです。岩手県大槌町に「風の電話」があります。電話線はつながっていないのに多くの人がその電話ボックスを訪れます。ある人は亡き人に話しかけ、ある人は受話器を握ったまま涙を流し続けています。それほどに災害で突然大事な人の命が奪われる事は辛いのです。

発災前の活動が命を守る

災害ボランティア活動は発災後の活動に焦点が当てられがちですが、実は発災前の減災活動はより大きな意味があるといえます。私たちは「未災地意識」を持って、「話す・伝える」団体になろうと２０１６年度活動してきました。多くの活動をしてきましたが、大事な命を守ることをどれだけ徹底してきたかをそれぞれが深く問いながら２０１７年度の活動を作り上げたいと思います。

災害ボランティアセンターも命を守る

災害ボランティアセンターの活動は、残念ながら起きてしまった混乱の解決方法の１つです。災害ボラセンの活動の仕方ひとつで、被災してきた方々の回復が大きく違ってきますからその運営能力を高めることはとても大切です。熊本地震の様な多くの災害関連死を出さない対策も必要です。しかしもう一つ、発生する前の日常生活の中で、どれだけ命を守り暮らしや夢が災害によって破壊されないような備えを固めていくかの活動もとてもとても大切です。

＜大槌町にある「風の電話」＞

〒028-1101 岩手県上閉伊郡大槌町吉里吉里 9-36- 9

港北区災害ボランティア連絡会の会員のみなさんは日常的にも様々なボランティア活動を行い、それぞれが力を持っています。その力を寄せ合い、事前の備えと事後の活動に十分な力を発揮するための2017年度方針を考えてやっていきましょう。

（宇田川）

来る人・行く人

事務局や区の陣容が変わりました。事務局次長が交代し、新人もいらっしゃいました。区役所でも林総務課長や丸山係長（ボランティア班担当）が替わり、こちらにも新人がいらっしゃいました。新しい方、去っていった方からの一言です。

高根沢恵子

（港北区社会福祉協議会事務局次長）

４月１日矢﨑の後任で事務局次長に着任しました高根澤　恵子です。
港北区災害ボランティア連絡会の活動を、打ち合わせや資料を通して学んでいるところです。発災いつ起こるかわからないものです。連絡会の活動を通して、方針にもある「自分ごと」として、「つながりはそなえ」ということを実感します。社会的に人間関係の希薄さが目立つ世の中ですが、いざという時のために日常的なつながりと私たち自身の意識がとても大切だと思います。
ニュースでは「私の取り組み」の記事がありますが、私は？と言われるとほとんどしていないのが現状です。玄関のすぐそばの部屋には、水など非常時グッズがあるとは言え更新されていないことを反省です。また、ペットを飼っている知人がフードやシートを車に積んでいるということを聞くと、我が家はペットもいるのに何もしていない。いい加減な飼い主ですね。この出会いが良い機会ととらえ、我が家も防災に備えています。
こんな私ですが今後ともよろしくお願いいたします。

「つながりはそなえ」を作り出しましょう

遠田哲也　　（港北区社会福祉協議会）

４月１日付けで港北区社会福祉協議会に配属となりました遠田哲也と申します。昨年度は社会福祉士養成校に通いながら緑区社協議会で非常勤職員として働いていました。学校は実習があり大変でしたが、卒業の見込みも立ち、社協の職員採用試験を受験しました。幸いにも合格することができ、今年度から職員として働くことになりました。担当業務は生活福祉資金の貸付相談や障がい当事者支援、災害ボランティア連絡会などです。
災害ボランティアで大切なことは、相手の気持ちを考えること、安全に配慮すること、無理をしないことなどがあると思います。中でも私の役割で重要なことは関係者間の連携を円滑にすることだと考えております。そういったことにやりがいを感じる一方、難しさも感じています。ですので、先輩職員からよく聞き、コツコツと取り組みたいと思います。
趣味は２年ほど前から始めたバスケットボールです。初心者の私と一緒にプレーしてくれる仲間に恵まれ、月に２~3 回ですが楽しく汗を流しています。私は中途採用でそろそろ 30 歳。体力づくりも大切に、皆さまと住みやすい地域づくりに取り組みたいと考えています。どうぞよろしくお願いいたします。

十鳥美津子

（総務部地域振興課生涯学習支援係長）

４月から港北区のボランティア班の副班長として、災害ボランティアネットワークの会議等に出席させていただいております。
過去の大震災では、多くの災害ボランティアが救援活動に駆けつけ、その活動は、被災者の方達の心身や生活の安定、再建の大きな力となりました。しかし、災害ボランティアの皆さんへの適切な情報発信等、災害ボランティアに係るコーディネート体制やサポート体制には、まだまだ多くの課題があります。
震災発生時にボランティア活動が円滑に行われるためには、日頃から、区役所、市民皆さま、地域団体、災害ボランティアネットワーク、地域防

災拠点、社会福祉協議会等、地域の様々な主体の顔の見える関係づくりができており、いざという時の協力・連携が図れるようになっていることが大切です。

これから定例会や訓練等への参加を通じて、皆さまと「顔の見える関係づくり」を進めていきたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

矢崎哲一郎（戸塚区社会福祉協議会）

２年間大変お世話になりました。思えば、磯子区で災害ボランティアセンターを立ち上げよう、となった時に“先進区”として視察に伺ったのが港北区でした。大々的な立ち上げ訓練、さすがだなあと思った記憶があります。

あれから十数年、自分がその港北に異動になり災ボラの担当になるとは思いませんでした。でも災ボラ担当として２年間関わらせていただいた時間は、私にとって大変貴重なものでありました。定例会での議論、常総市視察、太尾防犯拠点での訓練、などなど密度の濃い活動に関わらせていただきました。特に常総市の視察は大変有意義でした。災害に負けない気持ちを持つことが大切だ、ということを実感した素晴らしい体験でした。それだけにもっと一緒に活動したかったと言うとっても残念な気持ちでいっぱいです。

いつかまた災ボラの皆さんと一緒に活動出来たらうれしいです。ありがとうございました。

区役所の新人事

橡木総務課長
佐藤危機管理担当係長
市川さん、厚地さん、葛川翼さん（新職員）
ボランティア班担当　十鳥美津子さん

今月は総会です。

一年間の活動方針を決める大事な会です。多くの方の参加があって始めて総会の意味を持ちます。社協も総務課も陣容が変わり、ご挨拶にも見えます。是非ご出席ください。
５月１７日（水）10時～
港北区保健福祉活動拠点
欠席の方は委任状をお忘れなく提出ください

リレー連載　我が家の防災　④

山本さんちの地震対策　　山本正史

「わが家の地震対策」など行政から勧められている地震対策は一通り行っています。

・自宅の耐震化
・家具の転倒防止
・食器棚が地震で開かないようにする
・食器棚のガラスに飛散防止フィルムを張る
・感震ブレーカーを設置する
・食料、飲料水、トイレパックを備蓄する
・ヘッドライト、ヘルメット、靴を枕元に置いて寝る

その他に私の心がけていることを３点紹介します。

１．数年前から居間の暖房を灯油ストーブにしました。それもファンヒーターではなく、昔ながらの反射式ストーブです。停電時でも暖がとれるし、煮炊きもできます。

灯油は常に２０Ｌは備蓄するようにしています。ガソリンスタンドまで灯油を買いに行くのが面倒ですが、ついでに自動車のガソリンも満タンにするようにしています。

２．いざという時に動けるように体を鍛えています。毎日、朝夕に簡単な運動をしています。朝は腰痛予防を兼ねて、３０分ほど筋ストレッチや関節の曲げ伸ばしをしています。夕は腹筋、腕立て、スクワットなど１５分ほど簡単な筋トレをしています。

地震から逃げるのも、被災した方を救助するのも自分が動けなければできません。

３．町内会などに参加して地域の方々と顔みしりになるように努めています。

町内会や地域防災拠点運営会議などに積極的にかかわるようにしています。
運動会などの地域の行事にもなるべく参加するようにしています。いざという時一番頼りになるのは隣近所の方ですから、地域の防災力を高めたいと思っています。

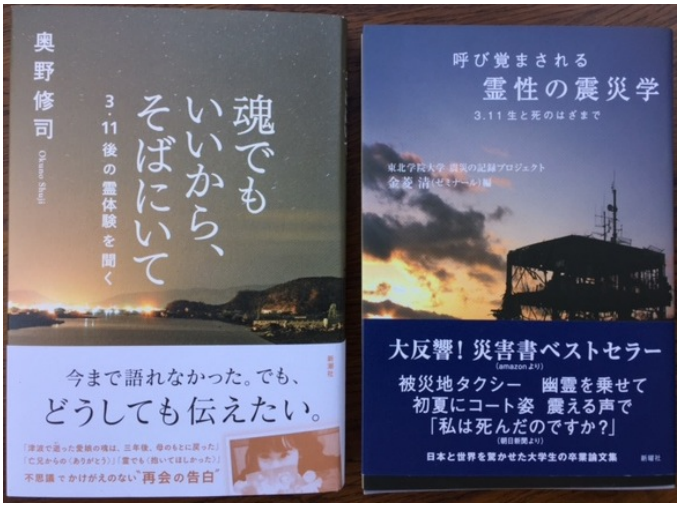
災害本

「呼び覚まされる　霊生の震災学

３・１１生と死のはざまで」
東北学院大学震災の記録プロジェクト
金菱清（ゼミナール）編　　新曜社

「魂でもいいから、そばにいて」

３・１１後の霊体験を聞く
奥野修司　　新潮社



東北の海辺では「あの日」と言うだけでいつの日なのか誰でもわかるそうです。「あの日」多くの命が失われました。
「逢いたくて　でも会えなくて　逢いたくて」
女川一中の佐藤朱里さんの詠んだ句です。逃げたと思っていた大好きなお母さんは海で見つかりました。
そんな悲しい話が話で溢れている東北の被災地では幽霊に出会った話が多く聞かれます。また姿を見なくても不思議な体験談も数多くあります。あいたくてあいたくてしかたがない死者と生者の魂の声が呼び合っているからでしょうか。私も現地で活動したボランティアから直接聞いたことがあります。
「霊性の震災学」では幽霊との遭遇体験や各地に作られた慰霊碑、関係者の中で複雑な感情を抱かせる「震災遺構」、流された墓を回復し納骨することで納得できる死、母親を亡くすものの直接の津波被害は受けなかったため周囲から被災者とは見られない地域の受民の苦しみ、普段ではあり得ない過酷な葬儀の形を強いられた葬儀業者、多くの犠牲者を出した消防団員、増え続ける野獣を狩猟するハンターの抱えるジレンマ、など様々な死と生の場面を記録する中で、あの日から立ち上がるためにはとてつもないエネルギーがいる事を教えてくれます。
支援者がどれだけのことができるか分かりませんが、それでも現地に行く必要は有ります。
「魂でもいいから、そばにいて」では「霊性の震災学」でも取り上げられて幽霊との遭遇体験の聞き取り調査から、愛するものを失う辛さが各ページから伝わってきます。　　(宇田川)

ボーイスカウト横浜第８団バザー

４月 23 日㈰災ボラとして２回目の参加のボーイスカウト８団バザーが白幡小で開かれました、。ボーイスカウトの皆さんから「去年も会いましたよね」と嬉しい声掛けをいただきました。テント張りは女性メンバー４人には少し大変でしたが、ボーイのリーダーさんの助けを頂き無事立ち上げました。その後、パイプ椅子や段ボールなどを工夫、売り台をセットし、売り子に変身。この段取りが、災害ボランティア活動の基礎？「つながりがそなえ」と思いながら、一日販売しました。
物品販売は災ボラの活動でもあり、活動資金としてとても重要です。皆さん有難うございました。
(付岡)
＊販売活動は会の自己資金確保につながるとともに、被災地の現状を伝え、継続的な支援を訴えることにもなります。多くの会員で支えていきたいと思います。

訃報

長らく書記として港北区災害ボランティア連絡会でご尽力いただいた鈴木恵子さんが亡くなりました。５月３日のお通夜には白井会長、高根沢、宇田川両副会長、書記の中島さんが参列致しました。謹んでご冥福をお祈り致します。